

ユースワーカーは何に依って、関わりをえらびとっているか

～10代の若者たちとのパブリックスペースでの経験をもとに～

What are the criteria youth workers are using to select their support for young people?

Focusing on youth workers involved with teenagers at local youth centers.

○横江美佐子 Yokoe Misako・玉村文 Tamamura Fumi

公益財団法人 京都市ユースサービス協会

Kyoto City Youth Service Foundation

Key words: 若者支援, ティーンエイジャー, かかわり手法

目的

全国各地で多様な若者支援が取り組まれており、実践報告がなされている。しかし、若者たちと関わる支援者らが、現場でどのような視点を持ち、何を見据えながら日々仕事をおこなっているのか、そこで起こる葛藤をどのように乗り越え、どんな手ごたえを得ているのか、といった報告はなされていない。つまり、多くの支援者らが多くの10代の若者らと出会っているが、そこでの営みを「見えるもの」として提示できているとは言い難い。そこで本調査では、学校外で10代の若者を対象にした余暇活動に取り組む支援者にインタビューを行い、実践の中に積み上げられた経験とそこから導きだされた様々な知を概観し、整理することを目指した。また、若者支援に携わる者に必要な専門的力量の一部分を明らかにすることに加えて、若者の育ちの場とそこでの営みを豊かに描き出すこと、その過程で若者のつながりを豊富化するためのアプローチ方法を見出すこととした。さらに、「若者の成長の過程」を明らかにするための手がかりを得ることを目的とした。

方法

対象者 不特定多数の若者の利用を前提にしている青少年施設（オープンアクセス）で、10代の若者を中心に関わっている3年以上のキャリアを持つ3名の青少年支援者（男性1名、女性2名）を対象とした。

調査方法 1時間半程度の半構造化面接を行った。インタビュー項目は2012年に京都市ユースサービス協会内で実施した聞き取り調査を基に作成した。項目は「大切にしている視点」、「何を見据えて、関わりを行っているか」、「葛藤をどのように乗り越えているか」、「どんな手ごたえを得ているか」など、実践におけるエピソードを中心に聴いていった。その際、インタビューはICレコーダー（ソニーICD-UX512）で録音した。

分析 インタビューは録音後、書き起こした。書き起こした文章を用い、インタビューと同様の経験を持つ支援者3名と現場経験のある研究者1名、20年以上の現場での支援キャリアをもつ2名によって（自己）探求的

分析がなされた。具体的には文章をコーディングし、グループ化したものを分析、考察した。

結果

対象者へのインタビューから全員に共通して抽出されたものを共通要素、対象者間で共通せず、対象者個人の要因が強いものを独自性の強い要素とした。

共通要素 支援者は10代への「関心（関わり）」を持ち続けること、「ロビーという非構造的な場を社会コミュニティにつながる場として認識したかかわり手法を選びとっていること」、「その際に感情を表出するアプローチを選択すること」、「限界を自覚」していることが共通した要素であった。

独自性の強い要素 「枠（境界線）の意識の仕方」、「葛藤への向き合い方」、「10代の集団と個人への意識の向け方」が独自性の強い要素であった。

考察

共通要素より、若者とのつながりを豊かにするアプローチとして「関係作り」をベースとした手法を選び取っており、それは、若者が社会・コミュニティにつながる素地なることと意識されていることが示された。本調査により、支援者の共通の手法の一部が示された。今後の検討課題として、支援者がどのようにそれらの手法を内在化させ獲得したのか、更なる調査が必要である。また、その際に支援者の資源としての同僚集団の力、そのチームの成熟がどのように関わり手法、支援者自身の成長に影響を与えたかについても検討する必要がある。

参考文献

- 佐藤郁哉 (2008). 質的データ分析法 原理・方法・実践. 新曜社
- 水野篤夫 (2006). ユースワーカーとは? 渡辺嘉久・水野篤夫・森園忠勝 (編) ユースワーカーハンドブック ユースサービス大阪 pp.1-5.
- In Defence of Youth Work (2012). *This is Youth Work : Stories from Practice*